

## ■フジノウェーブ記念(SⅢ)アラカルト(過去7年の分析)

- ※平成 21 年までは準重賞スプリングカップとして距離 1200m で実施
- ※平成 22 年から重賞に昇格。名称を東京スプリング盃に変更して距離 1400m で実施
- ※平成 21 年までは同時期に距離 1400m で東京シティ盃が実施されていた
- ※準重賞スプリングカップは平成 18 年まではハンデ戦、平成 19 年以降は別定戦で実施
- ※平成 26 年からレース名をフジノウェーブ記念に変更
- ※優勝馬に東京スプリントの優先出走権を付与
- ※記録は 2 月 20 日時点のもの

### ■斤量59キロの実績馬が圧倒

- ※7 回中 5 回が斤量 59 キロの実績馬が優勝(1~4 回の優勝馬はフジノウェーブ)。
- ※とくに第 2 回は 1 着~3 着まですべて斤量 59 キロの馬だった。
- ※3 着内馬 21 頭中、9 頭が 59 キロの斤量だった。
- ※第 5 回は 59 キロのスマイルジャック(⑩人気)は 13 着に敗れた。
- ※第 5 回は 58 キロの馬が 1・2 着。58 キロ以上の馬で 3 着内馬 21 頭中 14 頭を占めている。

### ■実績馬が強い TCK 短距離重賞

- ◇過去 10 年間の距離 1190m~1400m の TCK 重賞の傾向(JBC スプリントは除く)
  - ※東京盃(平成 19 年~28 年)、アフター5スター賞(平成 19 年~28 年)、東京スプリント(平成 22 年~28 年、前身の東京シティ盃・平成 18 年~21 年)、フジノウェーブ記念(平成 22 年~28 年)が対象。
  - ※ただし、平成 21 年には東京シティ盃と東京スプリントが同一年度に開催。

◇重賞勝ちがなければ、TCK の短距離重賞制覇は難しい

- ※上記レースの 1 着馬 38 頭中、31 頭がすでに重賞勝ち馬だった。

◇ダートグレード競走の実績も必要

- ※上記レースの 1 着馬 38 頭中、28 頭がダートグレード競走 4 着以上の実績があった。

◇上記の 2 条件をいずれも満たさなかった勝ち馬は 6 頭だけ

平成 19 年・東京シティ盃 1 着

フジノウェーブ(黒潮盃 6 着が最高成績、8 連勝中)

平成 21 年・東京スプリント 1 着

ゼンノパルテノン(プロキオン S9 着が最高成績)

平成 21 年・アフター5スター賞 1 着

ケイアイジンジン(函館 2 歳 S8 着が最高成績)

平成 22 年・アフター5スター賞 1 着

ヤサカファイン(東京スプリング盃 5 着が最高成績)

平成 23 年・アフター5スター賞 1 着

タカオセンチュリー(重賞初挑戦)

平成 26 年・アフター5スター賞 1 着

サトノタイガー(JRA 芝重賞 13 着が最高成績)

## ■高齢馬に要注意

※第1回は8歳馬、第2回は9歳馬、第3回は10歳馬、第4回は11歳馬が優勝している(いずれもフジノウェーブ)。第6回は8歳馬セイントメモリーが優勝。

- ◇4歳馬【10頭】 1勝、2着3回、3着0回
- ◇5歳馬【16頭】 0勝、2着1回、3着3回
- ◇6歳馬【15頭】 1勝、2着0回、3着1回
- ◇7歳馬【22頭】 0勝、2着2回、3着0回
- ◇8歳馬【24頭】 2勝、2着1回、3着2回
- ◇9歳馬【15頭】 1勝、2着0回、3着1回
- ◇10歳馬【5頭】 1勝、2着0回、3着0回
- ◇11歳馬【1頭】 1勝、2着0回、3着0回

## ■準重賞ウインタースプリント組の動向

- ◇第1回優勝 フジノウェーブ ←ウインタースプリント1着  
2着 スーパーヴィグラス ←ウインタースプリント2着
  - ◇第2回優勝 フジノウェーブ ←ウインタースプリント4着  
2着 ジーエスライカー ←ウインタースプリント2着
  - ◇第6回2着 サトノデートナ ←ウインタースプリント3着  
3着 リアライズリンクス ←ウインタースプリント1着
  - ◇第7回2着 ドレッドノート ←ウインタースプリント5着  
3着 コウギョウダグラス ←ウインタースプリント2着
- ※今年の上位組は1着モダンウーマン、2着サクラレグナム、3着イセノラヴィソン。

## ■TCK所属馬が6勝で圧倒

- ◇TCK所属馬 6勝、2着5回、3着5回
- ◇船橋所属馬 1勝、2着2回、3着1回
- ◇川崎所属馬 0勝、2着0回、3着0回
- ◇浦和所属馬 0勝、2着0回、3着1回

## ■3番人気馬が3勝も波乱傾向

- ◇1番人気馬 2勝、2着0回、3着1回。3着内率14.3%
- ◇2番人気馬 0勝、2着1回、3着1回。3着内率9.5%
- ◇3番人気馬 3勝、2着2回、3着0回。3着内率23.8%

## ■牝馬は苦戦

※牝馬は12頭が挑戦し、第7回ブルーチップパーの5着が最高成績。

## ■東京スプリントとの関連

※上位馬(1着~3着)で、次の東京スプリントで連対したのは第1回、第3回優勝馬フジノウェーブのみ(それぞれ2着)。他は第2回2着ジーエスライカーの4着が最高成績。

## ■まだ偏りは見られない

馬番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
1着	0	0	1	0	1	1	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0
2着	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
3着	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	2

## 参考データ

※2009年まで同時期同距離で実施されていた東京シティ盃4年分(07年～09年)とフジノウェーブ記念(13年まで東京スプリング盃)過去7年分(10年～16年)、計10年分の成績を参照

### ■7歳・8歳馬が2勝ずつでリード

- ◇4歳馬 1勝、2着3回、3着0回。3着内率 13.3%
- ◇5歳馬 1勝、2着2回、3着3回。3着内率 20.0%
- ◇6歳馬 1勝、2着0回、3着2回。3着内率 10.0%
- ◇7歳馬 2勝、2着4回、3着1回。3着内率 23.3%
- ◇8歳馬 2勝、2着1回、3着2回。3着内率 16.7%
- ◇9歳馬 1勝、2着0回、3着2回。3着内率 10.0%
- ◇10歳馬 1勝、2着0回、3着0回。3着内率 3.3%
- ◇11歳馬 1勝、2着0回、3着0回。3着内率 3.3%

### ■牝馬は3着が最高

※牝馬は14頭が出走して、第19回(2009年)東京シティ盃プリユネルの3着が最高成績。

### ■外国産馬は、2着が2回

※外国産馬は13頭が出走して、第18回(2008年)東京シティ盃シルヴァーゼット、第6回(2015年)フジノウェーブ記念サトノデートナの2着が最高成績。

### ■TCK所属馬が8勝で圧倒

- ◇TCK所属馬 8勝、2着6回、3着7回。3着内率 70.0%
- ◇船橋所属馬 2勝、2着4回、3着2回。3着内率 26.7%
- ◇川崎所属馬 0勝、2着0回、3着0回。3着内率 0.0%
- ◇浦和所属馬 0勝、2着0回、3着1回。3着内率 3.3%

### ■高橋三郎調教師(TCK所属)が6勝の大活躍

※TCK所属の高橋三郎調教師が6勝、2着1回と他を大きくリードする活躍。

## ■ 2番人気馬は未勝利

◇1番人気馬 4勝、2着0回、3着1回。3着内率 16.7%

◇2番人気馬 0勝、2着1回、3着2回。3着内率 10.0%

◇3番人気馬 3勝、2着3回、3着0回。3着内率 20.0%

※優勝馬には4番人気以下の馬が3回。2着馬は6回、3着は7回。

※上位人気馬3頭で決着したのは、わずか1回のみ。